

関満博 「強い町工場」教室 15

日本電産で培ったチャレンジ精神で 新しいニーズを次々に開拓



せき・みつひろ
明星大教授、一橋大名誉教授。
1948年生まれ。成城大卒。東
京都商工指導所などを経て現
職。全国の町工場を自ら歩き、
精力的に調査し続けている

岡山県浅口市は飲料用スト

ローの生産地として知られて
いる。しかし、中国などの安
価な輸入品が増えた影響で、
世代交代を契機に廃業するケ
ースが相次いだ。残っている
のは数社で、ほとんどが家族
経営のメーカーだ。

そんな中で、シバセ工業は
異色の存在だ。ストローの生
産技術を生かしてさまざまな
業界に販売先を広げている。
磯田拓也社長は創業者の親戚
で7年前に経営を引き継いだ。
従業員はパートを含めると約
20人いる。

磯田社長は大学卒業後、日
本電産のエンジニアを務めて
いた。シバセ工業に入社した
とき、経営状態は厳しかった。
大口取引先である食品メーカ
ーの需要が減少していたほか、

外資系コーヒーチェーンが急

拡大する影響で個人経営の喫
茶店の廃業が相次ぎ、ストロ
ーの外袋に店名を印刷する製
品も落ち込んでいた。

それでも、磯田社長は諦め
なかった。製品の特徴を見つ
め直しているうちに、

ストローが「極めて
薄い素材でできたパ
イプ」であると気付
いた。そこから「こ
れほど薄いパイプは
他にないのだから、
きつと飲料用以外に
も使えるに違いな
い」という発想にた
どり着いた。

とはいえ、飲料用
のほかにどんなニ
ーズがあるのかは全く
見当がつかなかった。



シバセ工業の磯
田拓也社長は外
部の視点を生かし、
新しいニーズを切
り開いてきた

そこで磯田社長はインターネ

ットを活用し、ユーザーに使
い道を考えてもらおうと考え
た。地方で自社のホームペ
ージを開発すると、「飲料用スト
ロー」と別に、「その他のスト
ロー」というカテゴリを作

り、「薄いパイプが作れる」と

アピールした。
するとホームページを見た
人から「工業用パイプとして
使いたいができるのか」とい
う問い合わせが入った。驚い
た磯田社長はホームページの
カテゴリ表記を

いてきた。

従来のビジネスがへこんで
きた場合でも、それまで培っ
てきた技術を新しい時代のニ
ーズと結び付けられたら、事
業を伸ばすことができる。こ
のとき、予想外の使い方をユ
ーザーのほうで考えてくれる
ケースも少なくない。磯田社
長は外部で培った新鮮な視点
で臨んだことで、新しいビジ
ネスを実現できた。

「その他のストロー」
から「工業用ストロ
ー」に変更するなど、
細かな工夫を積み重
ねた。その結果、次
第にこれまでに付き
合いない業界から
の問い合わせが増え、
磯田社長は「件ずつ
に丁寧に対応した。
こうして、化粧品ポ
トル用や医療用、住
宅関連用といった新
たなニーズを切り開

さまざまな挑戦を続けてき
た磯田社長は、今も日本電産
の永守重信社長の「すぐやる、
必ずやる、できるまでやる」
という考え方に強い影響を受
けている。永守社長の言葉を
集めた小冊子を作り、社員に
対して配布するなどしながら、
チャレンジ精神の浸透を図っ
ている。

田